

世界無形遺産

能

令和七年九月二十七日(土)十二時半開演(十二時半開場)

矢来能楽堂

全自由席

〒162-0805 東京都新宿区矢来町六〇

電話 〇三―三六八―七三二―

円満井会定例会能

Sat.,Sep.27 2025 / 12:30 ~16:50 / ¥6,000 (¥2,000 for 25years old or younger)

IZUTSU

A traveling priest comes to the temple called Ariwara-dera in Nara, where Ariwara no Narihira had lived together with a daughter of Ki no Arisune. While praying for their souls, a beautiful woman comes to water the flowers at Narihira’s grave and tells the priest about the poem the daughter made and the story of their close relationship in their youth. Then she reveals herself as the ghost of the daughter and disappears. Later, in his dream, she reappears wearing the robe and hat of Narihira. She dances, longs for her lover, and reflects herself on the surface water of the well as if Narihira himself were there.

SAKKA

A master wants to invite his uncle as an instructor for a gathering occasion of linked verse, *renga*, and sends Taro-kaja to the capital. Knowing nothing about the uncle, Taro-kaja calls out for him throughout the town. A well-known swindler named Sakka hears this and pretends as if he were the uncle. When they return, the master immediately recognizes Sakka as the swindler, but tries to deal with the situation peacefully. Things do not go as the master plans due to Taro-kaja’s misunderstanding, but by chance, they succeed in getting rid of Sakka.

AKOGI

An old fisherman asks a traveling priest to give repose to the soul of a man named Akogi, who was sunk into the bay. The fish in this bay is dedicated to the Grand Shrine of Ise, and the ordinary fishing is prohibited. Akogi often broke the rule, was finally caught, and punished. The man reveals himself as the ghost of Akogi, and disappears. While praying for his soul, the ghost with a fishing net appears, demonstrates his illegal fishing, and begs the priest to save him from severe torments of Hell.

- お申し込みは出演能楽師、または金春円満井会までどうぞ。
- 上演中の無断撮影、録音、録画は固くお断り申し上げます。
- 出演者、曲目は都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

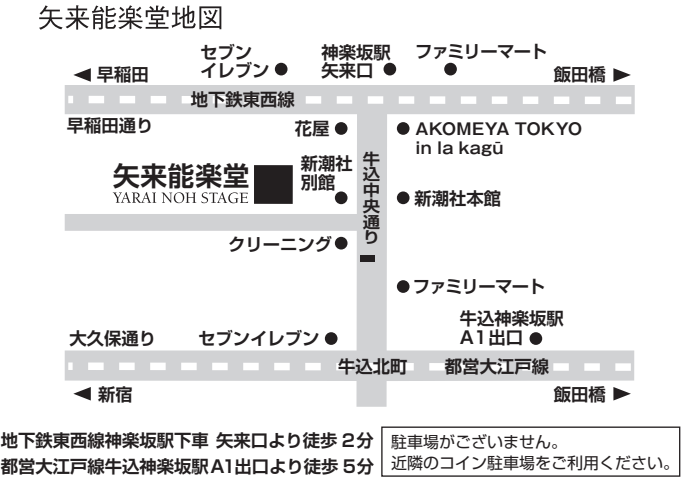
<主催>

公益社団法人 金春円満井会
komparu-emmaikai

〒167-0042
東京都杉並区西荻北 2-27-7 アルファ西荻窪 2 F
電話 03-6913-6714 FAX 03-6913-6775

ホームページアドレス
<https://www.komparu-enmaikai.com/>

<TYoshikawa/STakahashi>



井筒 (いづつ)

旅の僧が奈良の石の上にある在原寺を訪れ、在原業平やその妻である紀有常の娘のことに思いを馳せていると、一人の女が現れて花や関伽の水を手向ける。不思議に思い僧が業平に縁ある者かと尋ねると、女は「業平は昔でさえ昔男と呼ばれたほど遠い方で、縁もゆかりもあるはずがありません」と答えつつも、かつて業平が高安の里に通う姿を見守りながら妻が「風吹けば 沖つ白波 龍田山 夜半にや君が 一人行くらん」と歌を詠み、業平も妻の心を知り里通いをやめたことを語る。その妻とは紀有常の娘であり、業平とは幼い頃から家が隣にあり井筒のそばで親しく遊んでいた。

やがてお互いに年ごろとなり、業平が「筒井筒 井筒にかけし 磨がたけ 生ひにけらしな 妹見ざる間に」と詠むと女も「比べこし 振分髪も肩過ぎぬ 君ならずして 誰かあぐべき」と返し夫婦となったことなどを語るうちに、女は自分がその紀有常の娘であるとのめかし姿を消す(中入)。

僧の夢の内に女の霊が業平の形見の直衣と冠を着けて現れ、「あだなりと 名にこそ立てれ桜花 年に稀なる 人も待ちけり」と詠み「人待つ女」とも呼ばれたことを語りながら、業平を偲び舞う。やがて井戸に移る姿を見て「我ながら懐かしや」と涙を流すが、夜も明け、鐘と共に僧の夢も覚め、女の霊は消え失せるのであった。(布由樹)

阿漕 (あこぎ)

九州日向の僧たち(ワキ)が大神宮に向かう途上、伊勢国阿漕が浦(現在の三重県津市)で、釣り竿を携えて殺生で世渡する身を嘆く老人(前シテ)に出会う。僧は「伊勢の海 阿漕が浦に引く網も たび重なれば現れぞする」という古歌を思い出し、「阿漕」のいわれを尋ねる。すると老人は、阿漕とは海士の名で、大神宮の御膳のための浦で密漁を繰り返したため、他の漁師たちによって沖に沈められた。神罰を受けて阿漕は、今も冥途で苦しんでいるといい、弔いを頼み、漁火の影に網を引いてみせるが、にわかの疾風に荒れる波間に消え失せる(中入)。

僧たちが所の者(アイ狂言)から阿漕の最後を聞き、法華経を読んで弔っていると、阿漕の亡霊(後シテ)が四ツ手網を手にして現れ、密猟し始める。阿漕は法華経の声を聞くのだが、地獄と化した海でなお執心の網をひき、凄惨極まりない責苦に苛まれ、叫びながら、真夜中の波の底に沈んでゆく。

大神宮が今日のように「お伊勢様」と呼ばれ、大勢の人々が参詣し、誰にも親しまれるようになったのは、農業の神徳が強調される江戸時代以降のことである。そもそも大神宮は、天皇が神威を畏怖して宮中から伊勢に遷した神である。その運営方式は国法に基づいて厳格に定められており、祭祀の要となる御膳には、鮑など伊勢の海産物が欠かせない。舞うのが畏怖しい曲です。(森)

「定例会入場券」「カレンダー」
「金春月報」などご希望の方は
インターネットからご購入
頂くことが出来ます。



※上記 QR からどうぞ。

<https://ws.formzu.net/fgen/S38826101/>

(公社) 金春円満井会 法人化40周年記念寄付金 募集

皆様のおかげで、金春円満井会は法人化40周年を迎えます。1口3,000円から受け付けており、2口以上のご寄付を賜りました方には、特典もございます。金春流能楽という伝統を後世に伝えていくために皆様のご協力とご支援を仰ぎたく、お願い申し上げます。



※上記 QR からどうぞ。

<https://forms.gle/zeWwYaLfvdKDziJ247>

〈十二時〉

公演前解説

林 美佐

〈十二時三十分〉

番組

後シテ／紀有常の娘の霊

前シテ／里女

本田布由樹

能

井筒

ワキ／旅僧

大日方 寛

大鼓 安福 光雄
小鼓 幸 信吾

笛

八反田智子

アイ／所の者

中村 修一

後見 横山 紳一
本田 芳樹

地謡

金春 飛翔 金春 憲和
井上 貴覚 本田 光洋
中村 昌弘 辻井 八郎
立本 夏山 山井 綱雄

狂言

咲 嘩

シテ／太郎冠者

野村 万作

アド／主
アド／咲嘩

岡 聡史
福田 成生

後見

月崎 晴夫

〈二時五十分頃・休憩二十分〉

難 波

大澤久美子

仕舞

竜 田

クセ

岩松 由実

地謡

林 美佐
村岡 聖美
深津 洋子

経 政

キリ

金春 飛翔

仕舞

花 筐

クルイ

高橋 忍

地謡

井上 貴覚
辻井 八郎
本田 芳樹
岩間啓一郎

船 弁慶

キリ

中村 昌弘

後シテ／阿漕の亡霊

前シテ／漁師

森

瑞枝

能

阿漕

ワキ／旅僧

福王 和幸

大鼓 大倉栄太郎
小鼓 森澤 勇司

太鼓 桜井 均
笛 一噌 隆之

アイ／所の者

内藤 連

後見 金春 安明
山井 綱雄

地謡

大澤久美子 村岡 聖美
林 美佐 梅井みつ子
深津 洋子 岩松 由実
月雫 黎 柏崎真由子

附祝言

〈終演予定四時五十分〉

※感染症予防、対策にご協力お願い申し上げます

円満井会定例能 公演予定

於 矢来能楽堂 十二時半始

令和八年 一月三十一日(土)

巻 絹

本田 芳樹

野 守

中野由佳子

令和八年 三月十四日(土)

八 島

岩松 由実

杜 若

安達 裕香

■入場料 一般六、〇〇〇円 25歳以下二、〇〇〇円

※都合により、令和八年一月と三月の出演者及び曲目が変更となりました。
※令和七年度より、入場料の改定をさせていただきます。

金春円満井会特別公演

令和七年

十二月十四日(日)

関寺小町

金春 安明

於 国立能楽堂

※都合により曲目・出演者に変更のある場合がございます。